

テーマ：北方領土（実践校）

オホーツク管内 北見市立豊地小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・児童に北海道に対する愛着や誇りを育むため、北方領土に関する映像資料の視聴、調べ学習や考えの交流等を通して、地理や歴史、SDGsの観点から日本とロシアの関わりについて学習を深め、探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

北方領土について、第5学年社会科「日本の国土」、第6学年社会科「日清・日露戦争」「太平洋戦争と戦後復興」「国際協力」の学習、映画「ジョバンニの島」の視聴や調べ学習等を通して、現状のロシアと日本との関係を政治経済・文化の視点から児童一人一人が学び、考えを校内、保護者や地域に向けて発表するという課題を設定しました。

(2) 情報の収集

映画「ジョバンニの島」を視聴して、戦争の残酷さについて学びました。また、社会科や総合的な学習の時間の授業において、ICT機器を活用し、内閣府HPや北方領土復帰期成同盟HP等の資料を基に調べ学習を行い、情報を収集しました。



【映画「ジョバンニの島」の視聴の様子】

(3) 整理・分析

北方領土の地理やその歴史について学ぶとともに、北海道の水産資源や文化交流等についてロシアの現状を踏まえながら、SDGsにおける「2. 飢餓をゼロに」「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「16. 平和と公正をすべての人に」の観点から学習を深めました。

(4) まとめ・表現

学習した内容について、1人1台端末を活用してスライド資料にまとめ、発表し、児童同士で考えを交流することにより、北方領土に対する理解を深めました。



【学習した内容を交流している様子】

②児童の感想等

- ・自分の住んでいる場所を追い出されて、馬小屋で生活したり、自分たちの学校で別の国から来た人と一緒に生活したりするのはとても大変そうだと思います。
- ・ロシアからたくさん海の資源を輸入していることを知り、驚きました。
- ・日本と貝殻島の距離がとても近いことを知り、北方領土について考えるきっかけとなりました。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 課題設定の場面において、島との距離クイズや、すしネタと食糧問題について扱うことにより、児童が北方領土問題を身近に捉えることができました。
- 探究的な学習を通して児童は、北方領土問題について、平和をベースに交流、交渉を続けていく姿勢が大切であるということに気が付くことができました。
- 国と国の争いによる領土問題の現状や、学術研究、人的交流の停止、漁の操業許可の遅れ等の時事問題に十分に触れることができなかつたことから、計画的に学習に取り組む環境の充実を図る必要があります。
- SDGsでは、児童一人一人のテーマ毎に補足説明が必要となったことから、調べ学習の時間を十分に確保するとともに、児童に適切に助言できるよう、教師もSDGsに関する知識を深める必要があります。